

アカネ、ウコンなどの紅殻染め



ト、タオル、

靴下などの商品化に取り組んでいたが、馬淵繊維が婦人横編みニットを販売することになった。

馬淵繊維

紅殻染めニット販売 大正紡績と 商品化1弾

馬淵繊維は08年春夏から紅殻（ベンガラ）染めニットを販売する。大正紡績がベンガラ職人だった中島留彦氏と共同開発したベンガラ染め商品の第1弾となる。

ベンガラ染めは神社の鳥居の色などで知られ、防虫効果もあることから広く普及していた。UV（紫外線）カット、防カビ効果もある。これを中島氏が和綿などの染色にも広げ、大正紡績とニッ

ことになった。

素材は欧州の団体の認証を受けたトルコの農場で育ったオーガニックコットンで、トレーサビリティ（原産地探索）も可能。色は「古色の美」として12色が開発されているが、このうちアカネ、ウコン、コハクなど4〜6色予定している。

30番手双糸使いで12、14サイズの丸首、Vネックセーター、カーディガンや、デザイン物ではチュニック柄やレース使いなどを揃える。OEM（相手先ブランドによる生産）にも対応する。

馬淵繊維は紅殻に続きハニ（天然鉱物）染め、花（草木染め）、緋染めなど天然染めニットをシリーズとして展開する。